

令和5年度とくしま流域水管理委員会 開催結果

日時：令和6年2月22日（木）
午前10時～11時20分
場所：Web会議

【概要】

令和5年度とくしま流域水管理委員会では、とくしま流域水管理行動計画について、今年度までに策定した計画の取組状況や新たに策定した計画（河内谷川）などについて委員に報告し、意見を伺うとともに、今後も本計画を推進していくことを確認した。

【意見要旨】

■正法寺川

- ・正法寺川周辺は内水氾濫の危険性が高いと思われるので、洪水ハザードマップ作成時には、内水も意識すること。
- ・魚道設置について、魚の遡上調査を住民に参加してもらうなど、住民が関心を持つように広がっていけば、なおよい。
- ・洪水ハザードマップについて、活動団体や地域の事情に詳しい住民の方に入っただき、一緒に作成するとよいと思うので、町に働きかけていただきたい。
- ・ハザードマップは作成方法がある程度定められているので、作成後に住民に見てもらい、使いやすいもの、実効性のあるものを、地域の意見を踏まえ作成してほしい。

■河内谷川

- ・計画を進める上で、できるだけ多くの方、特に子供など若年層の方が参加できるような体制が望ましい。

■坂本川

- ・河道内の樹木は綺麗に伐採できている。
- ・地元の小学校における環境学習は非常にいい形で実施されている。

■那賀川（仁宇・阿井）

- ・上流にため池があることで治水に関する関心が高い地域なので、地域のリスク回避の行動に取り組むことができている。

■広岡川

- ・ホタル・カワニナの放流について、定期的に水質、河川の底質モニタリングを実施するなど定量的に保全活動が進んでいることを把握するような項目の実施を検討してみてもどうか。
- ・ホタルの放流について、同じ流域や徳島県内のホタルを移植する方向で考えていただきたい。
- ・瀬、淵のバランスがよいので、河川改修を行う場合、地元の方々との協議、合意形成を図ること。
- ・水管理行動計画を推進している箇所と河川整備計画を改定する箇所が一致しているので、地元と意思疎通を図るとともに、地元の意向を重視した実施とすること。
- ・カワニナの生息環境等について、河道の掘削等によってかなり状況が変化することも考えられるので、カワニナの生態に関する専門家等にも入っただいた上で計画等を考えること。

■全体

- ・ 流域水管理行動計画の一番の肝は、地元の方々が主体となって活動できることであり、県や市町村が主導で地元を押しつける形ではなく、地元が盛んに活動しているところに、県や市町村が関わる形が理想的。一方で、そのような体制が無い箇所については、行動計画策定以前の話として、県や市町村が地元に関わり、水管理に関する啓発等を実施し、意識を盛り上げる手法等、別途検討が必要。
- ・ 水教育の項目が無い箇所があるため、行動計画を策定・更新する段階で、水教育を実施できる範囲の有無を検討し、働きかけることが大切。
- ・ 各河川において行動計画が一回りした段階で地元の方々の意見や取組を発表するシンポジウム等の開催を検討すること。